

札幌皮膚病理研究所 NEWS



2004年8月号

今後のスケジュール

2004,7,22
症例検討；札幌医科大学皮膚科カンファレンス
場 所；札幌医科大学皮膚科

2004,7,24
学会発表；日本皮膚病理組織学会
場 所；エーザイホール（東京）

2004,7,31
症例検討；藤田保健衛生大学皮膚科カンファレンス
場 所；藤田保健衛生大学皮膚科

2004,8,7
セミナー；皮膚病理診断ワークショップ
場 所；エーザイホール（東京）

皮膚病理報告書作成件数 月間新記録更新！！

6月1日より30日までにご依頼いただきました、
皮膚病理報告書作成件数は 3153件となり、
月間記録を更新いたしました。
1ヶ月に3000件を超えるのは、新記録であり、
皆様のお力添えのおかげと心より感謝申し上げます。
これからも誠心誠意努めてまいりたいと思います。
今後とも何卒ご愛顧のほど宜しくお願い申し上げます。

◆ 第5回病理診断クイズ開始 ◆

第5回病理診断クイズが、7月より新たに始まりました。
ホームページにて毎週金曜日に2問ずつ出題しております。
診断を予想してぜひご投稿ください。

見事1位を獲得された方にはA Clinical Atlas of 101 Common
Skin Diseases(AUTHOR: A. Bernard Ackerman, M.D.)を、
連続1位を獲得された方には、当研究所皮膚病理研修無料券を
差し上げます。

～各種お申込・お問い合わせは当研究所まで～

札幌皮膚病理研究所
〒001-0018

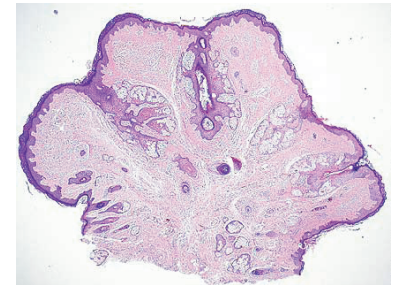
札幌市北区北18条西3丁目21-793
TEL 011-756-4810 FAX 011-756-4842
E-mail office@sapporo-dermpath.com
Website www.sapporo-dermpath.com

今月の症例

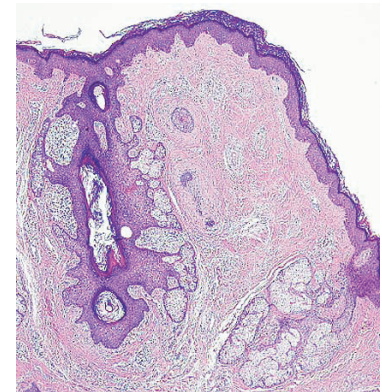


Fibrous papule

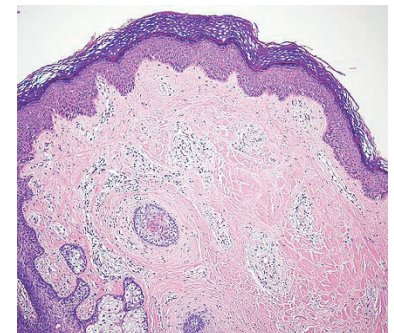
56才、男性
生検部位：鼻部
臨床診断：fibroma（鼻）
病理診断：Fibrous papule



半円状に隆起した病変があり、毛包周囲に膠原線維の増生と線維化を認める。



毛包を取り囲むように線維化が認められる。
拡張した血管も多数認められる。



表皮の肥厚は目立たず、hyperkeratosis も認められない。

What's new?

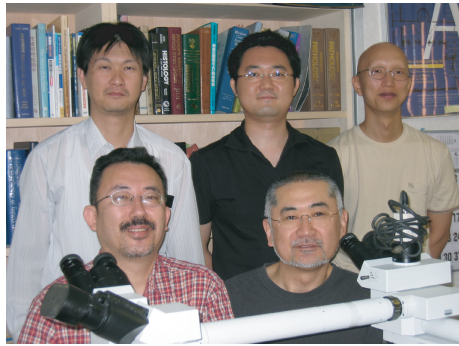
皮膚病理講座 応用編 (6月26・27日)

日本医科大学千駄木キャンパスにて

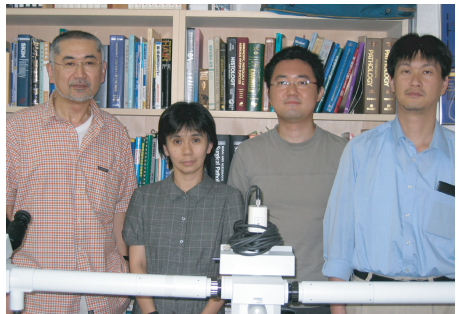


今月の研修生をご紹介します。

西村 啓介先生 (三重大学医学部 皮膚科) 後列中央
中島 英貴先生 (高知医科大学 皮膚科) 後列右



中島 喜美子先生 (高知医科大学 皮膚科) 左より2人目



第2回皮膚病理指導医養成講座 (7月3日)

東京エーザイホールにて



新しいスタッフのご紹介



札幌皮膚病理研究所

副所長

診断部および学術部部長

安齋 眞一

Shin-ichi Ansai

皆様こんにちは

8月より札幌皮膚病理研究所副所長として働かせていただくこととなった安齋眞一と申します。このニュースをご覧になっている先生方のうち、多くの方はセミナーなどで既にお目にかかっていることと思います。

私は、生まれ育ちは東京で、大学入学とともに山形へ移り住み、そこで学生・皮膚科医として24年間を過ごした後、秋田大学で約3年間お世話になりました。皮膚科医としては22年目になります。その間、皮膚腫瘍病理、特に附属器腫瘍の病理診断を自分の中での柱としてやって来ましたが、何せキャリアの多くが市中病院(通算10年)の皮膚科医でしたので、何でも屋にならざるを得ませんでした。

4年ほど前から木村先生と懇意にさせていただき、研究所開所後に何回か共同研究と称して四季の札幌を楽しみながら一緒に標本を見させていただきました。ガイド付きの遊覧旅行に行っているようで、その都度幸せな気持ちになりました(札幌の街の魅力というのも大きかったと思うのですが、伺ったのはほとんど厳しい冬のさなかでした)。

それを何回かやっているうちに、自分のやりたいことはきっとこれなんだろうなという気持ちが強くなり、幸いなことにいいタイミングで木村先生にお誘いを受けたこともあって、トラバークすることとしました。

学会などでは結構えらそうなことを言っていますが、皮膚病理の世界ではまだ丁稚です。早く、いい「チイパパ」になれる様にがんばりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

セミナー開催のお知らせ

ただいま、参加お申し込み受付中です。
ホームページ、E-mail、ファックスにてお申し込み下さい

皮膚病理診断ワークショップ 東京

皮膚軟部組織腫瘍病理診断のガイドライン作成

各講師が確定診断をつけた皮膚軟部組織腫瘍のヘマトキシリン・エオシン染色、特殊染色そして免疫組織化学染色の結果を検討し、腫瘍細胞の特徴、分化像の有無、腫瘍構築、血管やムチン、膠原線維の状態など、種々の項目を分析する。

2004年 8月 7日(土) 9時~17時

会場: エーザイホール (東京)

講師: 廣瀬 隆則先生 (埼玉医科大学病理学教室)

皮膚病理指導医養成講座 (年6回連続講座 東京)

2004年4月開講

研修医を指導するために必要な皮膚病理学

第3回目 8月 21日(土): 炎症性皮膚疾患3 & 沈着症と変性性疾患

第4回目 10月 23日(土): 腫瘍性皮膚疾患1
いずれも9時~17時

会場: 山王病院 山王ホール (東京都港区)

皮膚外科手術のための皮膚腫瘍病理学講座

手術切除される頻度の高い皮膚腫瘍の病理組織像の解説と手術方法や切除範囲の検討

東京会場: 2004年 8月 22日(日) エーザイホール

大阪会場: 2004年 10月 10日(日) 大阪市立大学 大講義室
後援: 大阪市立大学 皮膚科学教室

札幌会場: 2004年11月21日(日) 北海道大学 臨床大講堂
いずれも10時~16時

皮膚病理診断コンセンサスセミナー (札幌)

皮膚軟部組織腫瘍病理診断のガイドラインの作成

2004年 9月 4日(土) 9時~18時

5日(日) 9時~15時

会場: 札幌皮膚病理研究所

*前回のセミナー参加者を、優先受付しております。

第12回札幌皮膚病理セミナー ~世界の皮膚病理学と皮膚病理医~ (東京)

講師: Philip E. LeBoit, M.D. (University of California, San Francisco Dermatopathology Section)

10月29日(金) 19時より 特別講演
30日(土) 8時~17時 31日(日) 8時~15時

会場: 慶應義塾大学医学部 東校舎講堂

共催: 慶應義塾大学医学部皮膚科学教室

~詳細はホームページをご覧ください~

発行責任者: 高野 敦子